北信州森林組合　中野市担当

南都（なんと）　寛（ひろし）さん　　高柳秀行（たかやなぎひでゆき）さん

森林組合の仕事

山の所有の区分には、国有林と民有林があり、民有林の管理をお手伝いするのが森林組合の仕事です。

また、山の所有者の皆さんが、個人で機械などを買い、個々に山を維持管理していくことは費用的にとても難しく、全員で少しずつ費用を負担して森林の管理をするために作った組織が森林組合です。

今の森林の多くは、木を植え、木を育てる時期を過ぎ、利用間伐などにより木材を収穫する時期に入っていますが、個人が所有する山は一戸の範囲が狭く、そこのみの整備では、効率・収益が悪くなってしまいます。

そのため、所有者の方から委託を受け、民有林を「集約化」し、広い面積の団地を作ることで、計画的に作業道を開設し高性能機械を使って森林を整備しています。

この際に出た木材の売り上げから事業費をいただき、残った利益をお返しすることで、所有者の皆さんに対しては、極力負担が掛からないように作業を行っています。

今の森林管理に求められること

一時期は、材木の価値が高く、山は富を生む場所でした。しかし、1960年代の木材の輸入自由化に伴い、外国産材が市場に増えたことで山の価値が下がり、山に興味を持つ人が少なくなってしまいました。

そのため、山林をお持ちの方も、山に入った経験がなく、ご自身の山の場所が分からない方も多くなってきています。

集約化をする際には、山林を所有者の方に直接見ていただきながら境界の確認もするため、多くの方から、自分の山林の場所が分かって良かったというお言葉もいただいています。また、集約化した山林については、しっかりした測量も行うため、森林組合にお問い合わせいただければ、山林の情報確認を行うこともできます。

集約化の大変な面について

森林の集約化で一つの団地を作り、森林整備を行うためには50ヘクタール程の面積が必要になります。

しかし、個人で所有されている山は、一戸当たり5～10アール程度の場合が多く、一つの団地を作るのに、約100軒の所有者がまとまらなくてはならないため、その調査や準備にとても時間を要します。

また、森林の状況や森林整備の必要性を、所有者の皆さんに認識していただくことも大切なことなので、それを約100軒の方に共有していただくことは、とても大変な作業です。

山の大切さを感じるとき

春先には新芽が芽吹き、秋には葉が紅葉する―。四季折々に変化する美しい山を歩けば、とてもすがすがしい気持ちになることができます。

そんな「美しい山」があるからこそ、それが皆さんの思い描く「長野県」であり「中野市」の風景になるのではないでしょうか。

山の必要性として、「水源」や、「二酸化炭素の吸収源」などと言われますが、日常生活の中ではあまりピンと来ないかもしれません。いつ見ても、どんな時でも美しい山であることが、皆さんにとって一番山の大切さを実感できることなのではないかと思います。

北信地域の森林整備は、まだまだ継続して進めなくてはなりません。より美しい森林づくりのため今後とも努力して参りますので、集約化などでお訪ねした際は、ぜひご協力をお願いします。

▲森林の集約化のため、所有者の方と現地にて境界の確認を行います

地域の環境を守る―。その思いで猟師を続けています

中野市猟友会
会長　佐野澄博（さのすみひろ）さん

猟友会の活動内容

中野市猟友会には、現在35人の会員がいます。私は30年ほど前から活動をしており、猟友会では狩猟のほか害鳥獣の駆除を行っています。

昔は狩猟を主体に行っていましたが、害鳥獣の増加に伴い、今では狩猟よりも害鳥獣駆除が主体となってしまっています。

銃を扱うほか、わなを設置することもあるため、さまざまな免許の取得が必要です。また、集落にクマなどが出た場合は緊急で依頼を受けて活動する場合もあるため、すぐに対応できるように備えておく必要があります。とても大変に思うこともありますが、同じ志を持った仲間たちと出会えたことは、何よりも素晴らしいことだと思います。

山の変化について

イノシシやシカは、「雪の積る地域には来ない」と言ったものですが、今は市内でもその個体数がかなり増えている状態です。また、クマは年間2～3頭程度の捕獲だったものが、近年では13頭も捕獲された年もありました。

原因として、イノシシやシカなどが、雪の積る環境に適応してきていることが考えられます。また、クマなどの野生の動物が人里近くまで来れるようになり、人間に慣れてきているのではないかと私は思っています。

山に入ればやぶ林が増え、歩くこともままならない場所が多く存在するようになりました。そういった場所に身を隠して、野生の動物が人里近くまで活動範囲を広げているのではないかと思います。

野生動物が住むテリトリーと人間の住む集落との境が無いため、キノコや山菜を採りに少し山に入っただけで、クマなどの野生動物にばったり会ってしまう話は最近ではよく聞く話です。

狩猟で気を付けること

銃を使うため、獲物の確認については細心の注意を払って行う必要があります。狩猟や害鳥獣駆除などの目的よって「銃を扱える人」も決まっており、免許があれば誰でも自由に銃を撃てるわけではありません。

また、仲間との連携をとることも大切です。冬場の害獣駆除の際は、地元の皆さんと協力し、山の麓（ふもと）から獲物を追い込んでいただき、先に待ち構えていた猟師が獲物を撃ちます。話していたり、違うことを考えていたのでは目的を達成できません。銃を撃つ役割の人は一言も話さないで集中し続けなければならないので、集中力や体力をとても使います。

山の恵みと今後について

私たちが山でシカやイノシシなどを狩猟し、もしそのまま山の中に捨ててきてしまえば、それはただの殺生になってしまいます。

食べられる部分については、その日のうちに食べることで、山からいただいた命のありがたみを実感し、山の恵みに感謝することができ、それが供養にもつながるのではないかと思います。また、会のメンバーが集まって皆で食べれば、全員でその気持ちを共有することができますし、メンバー同士の交友にもつながります。

少しずつ猟友会のメンバーも高齢化が進み、害鳥獣駆除などに対応することも難しくなってきています。志がある方はぜひ声を上げていただき、私たちと一緒に活動していただければと思います。

▲毎年、技術向上のために行っている「猟友会射撃大会」の様子